

県の行政機構変わる

11月15日から

新しい県の行政機構が、第3回定例県議会で可決される11月15日から施行されました。

国の政治、経済の中に占める本県の地位は、ますます重要性を加え、最近非常に活発になつてきた国のいろいろな施策を、本県としてどのように受け入れるかが、重要な課題となつてきました。

このためには

- (1) 県が、主体性と自主性をもつて、積極的な体制でこれに対応する必要があります。
- (2) これからの開発は、単に経済開発に限らず、県政の各部門の施策が、調和のとれた形で、総合的に推し進められるよう、広く社会、生活環境、教育などの問題にまで及んでいかなければなりません。

こうした理由から、企画開発部の設置、若干の課の新設、振興事務所の役割の一部変更などを骨子として、次のように改正が行なわれることになつたわけです。

改正のおもな点

1 部の設置

企画開発部を設置し、この部に総合開発事務局、鹿行開発推進事務局および原子力事務局の所掌事務を統合しました。総務部から統計事務を移管して、県政の総合企画総合調整の事務、開発部門全般の事務などを担当させることになりました。

これらの事務等を分掌させるため、同部の分課として、総合企画課、開発課、鹿島開発第1課、鹿島開発第2課、原子力課、統計課の6つを設け、総合開発事務局、鹿行開発推進事務局、原子力事務局を廃止

2 課の設置、名称の変更など

- (1) 総務部考査研修課を能率課に改める。
- (2) 商工労働部商工振興課および商工指導課を商政課および工業課に改め、中央中小企業指導所を本庁に吸収し、経営課を設置して、一部の事務の配分替えをしました。
- (3) 商工労働部職業安定課から職業訓練関係事務を分離して、職業訓練課を設けた。
- (4) 農林水産部企画課を構造改善課に改めた。
- (5) 土木部道路課を道路建設課と道路補修課の2つに分

けた。

- (6) 土木部建築課から住宅関係事務を分離して、住宅課を設置し、同課に民生部社会福祉課から引揚者住宅の管理事務を移管した。
- (7) 土木部消防防災課を総務部に移管し、災害対策基本法の施行事務を総合開発事務局から同課に移し、水防関係事務は同課から土木部河川課へ移した。
- (8) 養老院を老人ホームと改めた。
- (9) 大洗水族館を大洗都市公園管理事務所に改めた。
- (10) 農林水産部農産園芸課肥料係を肥料検査所として独立させた。
- (11) 各土木事務所に分散している建築基準法の施行事務を、水戸、土浦、下館の3土木事務所に集中し、そこで処理する。

3 振興事務所

振興事務所は、今日まで地域の振興を推進する地方の中心機関として、地域振興計画の策定事務を主軸に運営してきましたが、この事務は、主として本庁の企画開発部において処理することになります。

しかし、地域行政の調整上、従来と同様に、各地域における出先機関の中核的地位はもっており、さらに、農業構造改善を含めた農村振興の総合的対策を推進するため、この面の指導体制をいつそう整備する。

すなわち

- (1) 農林課または農業課に農業構造改善係を新設した。
- (2) 農業経営連絡室は廃止するが、農業改良担当、畜産担当、蚕糸担当および土地改良担当の各主査を、農林課または農業課におく。
- (3) 振興事務所管内の土地改良事務所長、農業改良普及所長、家畜保健衛生所長および蚕業指導所長を、振興事務所の兼務とする。
- (4) 地方振興および農林行政の総合調整をはかるため、管内の関係出先機関の長をもつて構成する地方振興会議および地方農林会議を設けた。

4 その他

県行政各部門の総合調整を強化するため、本庁においては、従来の部長会議を庁議に改めるほか、農林会議を設けた。

統計課人事異動

県の機構改革に伴って、11月15日付で下記のとおり異動がありました。

転入者		転出者	
(新)	(旧)	(新)	(旧)
統計課長	竹内 精一	県北振興事務所次長	海野 幸次郎
統計課長補佐	大録 義行	農産園芸課長補佐	高崎 正三
課長補佐兼人口学事統計係長	高塚 繁	住宅課用地係長	菌部 義治
庶務係長	飯田 喜市	労政課労政係長	江橋 久允
広報資料係長	田中文 司	水戸県税事務所徴収管理課長	芦沢 信雄
企画係長	宇留野 真一郎	県会事務局主幹	田村 裕三
商工統計係長	横須賀 弘	学事文書課	外岡 弘邦
労働統計係長	山中 光	日立保健所	川崎 正
経済統計係長	森島 忠藏	県立中央病院	野田 貴美子
人口学事統計係	稲葉 鶴夫		
経済統計係	山田 昭		
人口学事統計係	諸星 健樹		
経済統計係	谷津 てる		

着任のご挨拶

統計課長 竹内 精一

このたび、統計課長として、皆さまと一緒に仕事をすることになりました。全くのしろうとではありますが統計には私なりに大きな関心を持っておりましただけにこのことは私にとって大きな喜びであります。

統計課が企画開発部に属することになったのを機会に心を新たにして、行政に科学性を持たせ、また社会各般に判断の資料として役立つように、統計をますます充実させてゆきたいと念じております。皆さまのご協力、ご指導を切にお願い申し上げます。

離任のことば

県北振興事務所 海野 幸次郎

このたび、県の機構改正に伴う人事異動により、県北振興事務所次長を命ぜられました。統計課長の在任1年の短い期間でありましたが、皆様の温かいご援助と、ご協力により極めて愉快地に過ごさせていただきました。深くお礼を申しあげます。

統計のもつ説得力は、日を逐つて高く評価されて行政はもとより、社会のいろいろな分野で活用されていますことはご同慶に堪えません。

新しい職場においても、統計の貴重な経験を生かしたいと思っております。皆様方のご自愛を切に祈りますとともに今後とも相変わらずご指導を賜りますようお願い申し上げます。

統計の交叉点

工業統計調査

昭和38年10月8、9の両日通商産業省主催により昭和38年工業統計調査のブロック会議が筑波町において開かれた。本県から海野統計課長、江橋係長外係員が出席し会議は通商産業省工業統計課長中道四郎、工業統計課長補佐本多末吉外関係係長ならびに東京通産局より調査課長柴田一夫外関係係長など出席のもとに行なわれた。主なる指示事項は次のとおりである。

昭和38年工業統計調査については国際連合勧告の趣旨を尊重し1963年世界鉱工業センサスに参加協力するため下記の点を改正した。

1. 調査の対象として自動車修理業を加えた。
2. 調査事項として新たに指定原材料及び燃料の消費額を品目別調査する。(追加)
3. 中小企業施策を樹立するに必要な調査項目を確保するため、従来の乙調査の調査項目を充実しこれまで甲調査の対象であった従業者4人〜9人の事業所を乙調査の対象に移した。
4. 従来付帯調査として実施していた工業用地及工業用水については地域経済の開発工業用水需給計画など国ならびに地方公共団体の重要施策の遂行上必要不可欠な調査であるため指定統計である工業統計調査のうち甲調査の調査項目として新たに加えた。

なお、工業統計調査は、わが国における製造業に属するすべての事業所を悉皆的に調査するいわゆる製造業に関する国勢調査である。

ご協力をおねがいいたします。

大内賞とは

大内賞は昭和27年に、大内兵衛博士が、統計委員会委員長を退職されたときに、国及び地方の統計関係職員ならびに民間団体から贈られた記念品の基金を大内先生が寄付されて作られたもので、わが国の統計にたいする大内先生の業績を記念する賞です。

この賞をわが国の統計界の最高の榮譽とするために、官庁、民間を問わず、広く統計家を授賞の対象とすることになっております。こうして大内賞は、統計界のノーベル賞として各方面から期待されて今日にいたりました。

受賞者の選考は、統計に関する最高の諮問機関である統計審議会委員で構成する大内賞委員会が二つの基準で行ないます。その一つは「著書、論文および統計技術について、わが国統計の進歩に直接貢献した人」であり、他の一つは「多年統計実務に従事してわが国統計の進歩に貢献した人」であります。受賞者数は、本年度の受賞者を含めて、54人となりました。大内賞の受賞者には、賞状、副賞(5万円)大内賞メダルを受与されるほか、産経新聞社から副賞が贈られます。大内賞メダルは、大内先生の肖像を彫つた、純銀製直径約70耗のもので、東京芸術大学教授で芸術院会員であつた故海野清氏、同大学教授山脇洋二氏の作成されたものであります。裏面には、大内賞の表示と大内先生のかかれた「統計天下」の文字が刻みこまれております。

今年全国大会で受賞されたものは前掲の4人であります。

消費者動向予測調査ブロック会議 12月5、6の両日大洗町かもめ荘で関東ブロックの10都県の関係者が参集して開かれました。

市町村統計主管課会長 12月12、13の両日水戸市内水府荘で開かれ、39年度の事業概要と38年度の事業について審議されました。

統計協会から出版されている各種出版物のうち今後発刊予定の次のものは着々準備をすすめております。予約ご希望の方はお申込み下さい。(申込先は県統計協会)

- | | | |
|---------------|-------|---------|
| 1. 38年版茨城県統計書 | 39年3月 | ¥1,200円 |
| 1. 38年版茨城県勢要覧 | 39年1月 | ¥170円 |
| 1. 38年版茨城県勢要図 | 39年5月 | ¥70円 |
| 1. 統計だより(毎月) | 各月末日 | ¥5円 |
- (予定価)

農業基本調査説明会が、12月18日から4日間をわたり水戸市ほか県内3カ所において行なわれました。

このたびの異動により、統計茨城の編集担当者がかわりました。今後皆様から親しまれる月刊誌といたしたいと思っております。是非ご投稿と、ご意見ご希望をお寄せ下さることを期待しております。(編集係)

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
人 口			織 維 統 計 月 報	38年9月	通産大臣官房 調査統計部
日本の人口35年	35年	総理府統計局	機械器具流通統計月報	38年8月	"
国勢調査報告書(北海道)	"	"	皮革統計年報	38年	"
"(山口県)	"	"	建築統計年報	"	"
日本人口地図	"	"	茨 城 県		
文 教			保健所活動の概況	37年	県衛生部
学校保健統計調査(速報)	38年	文 部 省	工業統計調査結果の概況	"	県統計課
"	"	東京都統計部	眼でみる茨城県の国民年金	38年9月	県国民年金課
社 会, 労 働			教 育 便 覧	37年	教育庁総務課
郵政統計年報(保険年金編)	37年	郵 政 省	"	38年	"
指定統計の調査要集録	38年10月	行政管理庁統計局	勝田市建設実施計画書	37年~ 41年	勝 田 市
労働異動調査結果報告	37年	基 準 官 房 統 計 部	農 家 経 済 調 査	38年	農林省茨城県 統計調査事務所
毎月勤労統計調査結果報告	"	調 査 部	茨城県農業試験場研究報告	37年	県農業試験場
"(抜萃)	"	"	" 業務年報	"	"
"(地方調査)	"	"	各 都 道 府 県		
"(全国7月)	38年	"	工業統計調査集計結果速報	37年	福井県総務部
経 済, 財 政			徳 島 県 勢 一 覧	38年	徳 島 県
家計調査年報	37年	総理府統計局	山 口 県 勢 要 覧	"	山 口 県
東 亜 経 済 研 究 1 号	38年	山 口 大 学 東 学 会	群馬県市町村民所得統計表	年	群 馬 県
" 2 号	"	"	愛 知 県 勢 要 覧	38年	愛 知 県
中小企業基本調査報告書	36年10月	通産省中小企業庁	静岡県 の 県 民 所 得	37年	静岡県統計課
(其の6)			卒 業 後 の ゆ く え	38年9月	愛媛県統計課
商業統計表(第1巻)	35年	通産大臣官房調査部	鳥 取 県 勢 要 覧	38年	鳥 取 県
"(第2巻)	"	"	学校基本調査結果報告	"	群馬県統計課
家計調査報告	38年5月	総理府統計局	栃木県家計調査結果報告	37年	栃木県統計課
農家経済調査	38年1, 2	農林省茨城統計調査事務所	都 民 の 生 活	38年	東京都企画室
商業動態統計速報	38年11月	通産大臣官房商業統計	長 崎 県 の 商 工 業	37年	長崎県統計課
産 業			市 勢 統 計 要 覧	"	横 浜 市
たばこ販売状況と市場	37年	日本専売公社 水戸地方局販売部	福 井 県 民 所 得	36年	福 井 県 統計文書課
魚業地区名簿	38年9月	農林省統計調査部	統 計 横 浜	38年7月	横浜市総務局
電気通信統計年報	37年	関東電気通信局	大 阪 の 統 計	38年8月	大阪府統計課
牛乳, 飲用牛乳, 乳製品の 生産消費量に関する統計	"	農林省農林経済局 統計調査部	県 民 所 得 の 概 要	37年	愛知県統計課
林家抽出集計報告書	35年	農林省統計調査部	島 根 県 民 所 得	36年	島根県統計課
にわとり春びなに関する 統計	38年6月	"	長 野 県 衛 生 年 報	37年	長野県衛生部
繊維統計速報	38年10月	通産大臣官房繊維 統計調査室			



人間雑話 (17)

茨城大学教授 塚本勝義

人間は誰でも幸福を望んでいる。結局は、苦勞するのミ、いつかは幸福をつかめると信ずるからだ。しかしながら、生涯をかけて求める幸福とは何か、となると、どうもはつきりしない。しこたま金があたまつたら、すばらしく幸福になれると思う。ところが、たまって来ると、よろこびよりも心配が先立つらしい。そして、テツポウ虫時代がなつかしくなるらしい。役付きになつたら、生甲斐たつぷりと思つてる。さて、あこがれの「長」のつく立場になつてみると、夜中に眼を覚すほどの心勞になやまされ、使われていた頃のノンキさが、たまらなくなるらしい。好きな人と結婚できたら、日本一の幸福感に覆れるだろうと、甘つたるい夢を描くが、めでたく高砂やと来ると、間もなく「現実の悲哀」を痛感し、何の因果でこんな代物がかつぎこんだのかと自分自身が浅間しくもなろう。

あれやこれやと考えれば、幸福とは、あこがれているときだけに感じるものだろうか、とも思われる。実体ではなくて想像される幻影かとも感じられてくる。ふところに入れられるものではなくて、柿の枝にひつかかつてぶらぶらしているものなのかとも思われてくる。

あなたは幸福だろうと、まれる場合もある。そんな時に限つて、ご本人はくさり切つてるといつた皮肉な現象もなくはない。こうなると、人様の認める幸福と、自分の自覚する幸福とは別物なのかと疑われてくる。自分が幸福と実感されぬ幸福なんて、紙に描いた餅よりもくだらない。

こまかく考えれば考えるほど判らなくなるのが幸福の真相だとすると、われわれは残念ながら実体を確かめないうで、夢遊病者の如く、あてどもなく幸福なるものを追いかけているということになる。正に悲劇だ。砂上に書きつける文字よりも果ない。

幸福だけではない。われわれは、実体を捉えずに大骨折りにしている場合が少くない。判り切つてるとされている平凡な、しかし根本的な大切な事にはつきりしていないことが多いようだ。もしも神が人間の幸福を知つていたら、判りもしないことを追いかけて一生を過す人間を眺めて、苦笑したり歎息したりするだろう。

人間の幸福とは何か——歳末や正月には、じつくり考えてみたい。そして、ちよつとでも本物の幸福に近寄る

努力をしたい。武者小路実篤は、幸福の頂点は山のとてつべんと同じだと言つてる。即ち、その人の最高の幸福は一瞬間しか自覚されないと言つてる。武者さんの言うことが真実だとしたら、ボーナスをいただいた瞬間に幸福の絶頂がひそんでいるのかも知れない。

○ ○ ○ ○

アメリカの経営問題のコンサルタントとして著名なH・W・ガブリエルは、人を動かす根本は個人的力にあると断言している。十万人もの成功者のやり方を統計学的に心理学的に分析検討した結論なそうだ。ピンと来る結論だ。彼は「真の個人的力には四つの秘密がある。真の個人的力はたちどころに人を捕える。真の個人的力は、他人の方からあなたに調子を合わせたいと思わせる力である。真の個人的力は他人があなたのために尽くしたいと思わせる力である。真の個人的力は他人があなたと親しくなりたいと思わせる力である。」と言つてる。

人を思うように動かせないと、自己の非力を反省しないで、あいつは変な奴だと評価する。隣にいる者が協調しないと、あれはヘソ曲りだと決めつけて、自己の非力に「指さす」つかぬ。まわりの連中が世話してくれないと、俺のまわりにはエゴイストばかりいるとぼやいて、自己の力の不足していることを棚上げする。同僚が親しんで来ないと、僕の仲間みんな冷血動物だなんて攻撃し、僕の力の貧しさを忘れ果てる。指導的立場にある人などは、がらくたばかりだから転任させてやれ——なんていう飛んでもないプランを立てる。自己の非力のもたらす不如意、非能率なんだから、転任の必要があるのは、非力な指導者その人であるはずだ。

まずいときには、先ず自己の力のあるなしを考えるべきだというのだ。こんなことをいうと、なんだ、きまりきつたお説教じやないかと冷眼視する人もあろう。しかしこれは、いわゆるお説教じやない。科学的手法に依つて抽出されたガブリエル理論の結論である。真理はあくまでも平凡だ。平凡だからといつて、なめてかかれれば、その平凡な真理にたたき伏せられる。

風速に乗つて記録を出す人もあろう。けれども永続きしない。あと戻りなしの前進は個人的力のある人間にのみ限られる。先ず「自己の力」を充実させることこそ、判りかねる幸福をつかむ近道であろう。